

タイ・モンクット王ラカバン工科大学（KMITL） ラボトレーニングプログラム 留学報告書

学部学科・研究科専攻	情報通信学研究科		留学時学年	1年
留 学 先	国	タイ	大学/機関	KMITL
期 間	2025 年 2 月 17 日 ~ 2025 年 3 月 11 日			
	短期		約 1 ヶ月	

[1] 参加した語学コースの時間数／科目名（受講科目・複数可）

- ・授業時間数： 本人次第
- ・科 目 名： 研究

[2] 授業内容について教えてください。

（クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等）

研究室の先生や学生と話し合いながら、研究を進めていった。

[3] 課外活動・研修旅行・余暇の過ごし方について教えてください。

基本的に毎日研究室に行って、研究を進めつつタイの学生と交流を図った。休日には、モールやお寺など観光地に行ったりもした。また配属先の先生に誘われて、タイの学会に参加をして、他大の先生や生徒とも交流をした。

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。（図書館、学生会館、スポーツ施設等）

セブンイレブン、食堂、マーケット、カフェ

タイ・モンクット王ラカバン工科大学（KMITL） ラボトレーニングプログラム 留学報告書

[5] 宿舎（寮やホームステイ）での生活について教えてください。

部屋：1 部屋__1__人で使用

様子：基本は1 部屋2 人の寮です。エアコン、冷蔵庫、洗濯機があり、困ることはなかった。また、寮の目の前にセブンイレブンがあるため、食事や生活用品も簡単に買える。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと：

留学中に一番楽しかったのは、異文化に触れる瞬間でした。特にタイの学生と交流する中で、日本では考えられないことがタイでは当たり前だったり、その逆もあたりやすことに驚かされました。お互いにそうした違いを共有しながら、互いの文化を深く理解することができたのは貴重な経験でした。もう一つ印象的だったのは食事です。タイ料理は全体的に辛いものが多かったのですが、お店や地域によって食べられる料理がまったく異なり、味付けも大きく違いました。例えば、タイの学会でリゾート地に行った際は、新鮮な海鮮料理を楽しめました。

● 苦労したこと：

研究室や観光地では基本的に英語が通じましたが、それ以外の場所では英語がほとんど通じませんでした。特に屋台では英語表記がなく、注文するのも一苦労でした。現地の人に教えてもらったり、翻訳アプリを活用したりしながら、何とかコミュニケーションを取ることができました。また、タイ語の発音が難しく、簡単な単語を使っても意図が伝わらないことがありました。例えば、タクシーで目的地を伝える際、発音が違うために通じず、地図を見せてようやく理解してもらえることもありました。

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上：

語学力の向上を実感する機会はまだないが、初日と比較して後半は聞いて話すまでの間が短くなった。

2) 専門知識の向上：

自分の専門とは別であったが、情報系という大きい括りで知見を広められた。

3) 自己成長など：

異文化への適応やコミュニケーションにおいて、成長を強く感じる。

タイ・モンクット王ラカバン工科大学（KMITL） ラボトレーニングプログラム 留学報告書

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

互いに英語を外国語として学んでいるため、段階的に英会話を学べます。また、配属された研究室の専門が多少ずれていても、外国の研究室で学ぶことで、新しい研究や異なるアプローチに触れることができます。異なる背景を持った人同士で議論をすることで、自分の研究に対する理解も深まります。

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

項目※詳しく記入して下さい	金額（当時の日本円）
渡航費（旅行会社に支払った経費）	
授業料以外の諸経費（教材費・課外活動・保険料等）	2万円
私生活における諸経費（食費・交通費・洗濯費等）	6万円
現地からの奨学金がある場合	
お土産代や個人的な買い物	2万円
その他（ ）	
留学に関する費用の総額	10万円

海外派遣留学生

タイ・モンクット王ラカバン工科大学 (KMITL) ラボトレーニングプログラム 留学報告書



海外派遣留学生

タイ・モンクット王ラカバン工科大学 (KMITL) ラボトレーニングプログラム 留学報告書

